

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	KID ACADEMY 伏見桃山校		
○保護者評価実施期間	R6年 12月 1日		～ R6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	R6年 12月 1日		～ R6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学的観点からのアプローチ法がある (意図を持ち支援を行う)	脳科学的根拠に基づいて、発達段階についての知識やアプローチ法などの研修を月に1～2回受け、研修で学んだ事を通して、より良い支援としてお子様に提示出来るように仕組み作りを行っています。	一人一人の発達段階を視る力を養い、お子様のストレングスやウィークネスを職員一人一人が理解し支援に繋がられるような研修の場を設けていく。
2	微細/粗大運動を行う活動時間を30分間以上必ず設けている (個別・2対1・集団の3パターンの形態)	個別の幼児机を用意しており、お子様一人一人が30分程、活動に取り組む環境を整えています	低年齢児に合わせたカリキュラム内容の拡充を図っていく。
3	就学に向けた活動プログラムがある	年長児を対象に就学に向けたプログラムを準備しており、秋頃から積極的に取り入れています。	発達段階に合わせ、就学に向けたアプローチを明確にし、プログラムの固定化にならないよう工夫していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	粗大運動のふり幅に限りがある	粗大運動専用の器具などを設置していない為、人との関わりを通した粗大運動がメインとなり、ふり幅に課題が生まれ、運動機能に積極的なアプローチには限界が生じる。	脳科学的な観点から運動機能の向上を図れるアプローチ法の拡充を図る。
2	野外活動が難しい	利用時間内に、野外活動を組み込む事が難しい	土曜日などで、イベントの開催や地域参加等できる取り組みを考えていく。

3			
---	--	--	--